

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番 76	福山市立御野小学校
最終更新日		2026年(令和8年) 3月10日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	課題解決力・コミュニケーション力
・各校とも、知・徳・体に係る工夫した取組がなされている。児童・生徒のつますきへのアプローチや心の教育の充実、幼保小中連携教育を今後とも進めてほしい。 ・研究方法等の工夫が見られる。児童・生徒、教職員、保護者・地域が、ともに挑戦できる場を大切に、やりがいや充実感が一層向上することを期待する。	・小集団での人間関係づくりはできるが、大きい集団における関わりには課題が見られる。 ・学習に向かう意欲や、努力する態度が育ってきた。基礎学力定着に向け、さらに評価の精度を上げるとともに、活用場面の充実を図る必要がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	自己を認識し、「なりたい自分」を目指し、自分の人生を選択し、自分らしく表現することができる。 【学びづくり部】校区研究テーマを踏まえ、課題発見・解決型の学びづくりを行う。 【生徒指導部】小中及び小小連携・交流活動の実施、生徒指導規程の見直しを行う。 児童・生徒の実態交流及び連携を行い、進路指導について研修する。 【健康・体力づくり部】児童・生徒が自らよりよい生活習慣づくりをするための取組を行う。 ※よりよい学習習慣や生活習慣づくりに向けた系統的な指標「校区スタンダード」の作成

III 自 校

ミッション		育成する 資質・能力	課題解決力（思考力・判断力・表現力）	コミュニケーション力（学びに向かう力）
ふるさと御野に愛着と誇りを持ち、未来を拓く意欲をもった人材を育成する。 ○教育活動を充実させ、児童に学力をつける。 ○多様性を理解し、他者と協働して活動する力を付ける。 ○地域と進んで関わり、地域から学び、地域のために役立ちたいという思いを育てる。		めざす 子ども 像	→①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現→⑤振り返る→	①伝え合う ②認め合い協働する
学校教育目標			低 学 年 中 学 年 高 学 年	① 相手の考えをじっくり聞いたり、自分の考えをはっきり伝えたりする。 ② 協力して活動しようとする。 ① 相手の考えを聞いて共感したり、自分の考えを伝えたりしながら合意形成を図ろうとする。 ② 自他の良さを生かしながら協力して活動しようとする。 ① 相手の立場や思いを理解し、意見を出し合いながら、合意形成を図ろうとする。 ② 自他の良さを生かしながら協働して活動しようとする。
自ら学び、人間性豊かで、たくましく生きる子どもの育成				
現 状				
<児童生徒> ○学習への意欲やねばり強く努力する態度が育ってきたが、知識の活用には、まだ課題がある。既習の知識や技能を活用し自ら考えたり、工夫して表現したりする場を効果的に設定し、学習過程を充実させる必要がある。 ○児童は、素直で優しく、真面目に行動しようとしている。一方、他者との関わりの中で、自分の思いが言えなかったり、相手の思いを理解できなかったりする場面も見られる。さらに、協力して活動する良さを実感するよう取り組む必要がある。 <授業> ○生活科と総合的な学習の時間を核にした総合単元構想を作成したが、学習課題の見直しや、学習過程の充実を図る必要がある。 ○単元構想シートを活用し、各教科等の「見方・考え方」をはたらかせて納得解を生む授業づくりに努めた。今後、知識を活用する場を積極的に設け、使える知識・技能の定着を図る必要がある。 ○児童が学習に達成感を感じ、意欲を高めつつある。育成すべき力を明確に学びの良さを実感するとともに、学習したことが、次の学習や家庭学習等につながるようにする。				
		テーマ	主体的に学び、他者と協働して課題を解決する児童の育成 － 探究のプロセスにおいて、地域の人・もの・ことと関わる単元づくりを通して －	
		研究 内容等	○地域素材を活用した探究的な単元の構想 ○見方・考え方ははたらかせる教師のファシリテーション（課題との出会わせ方 発問 つますきや困難への支援、個別・協働的な学びの場）の工夫 ○育成する資質・能力を明確にした振り返り（理解 関連付け・統合 自己の成長）の充実	
		めざす授業の姿	◇児童が知的好奇心を持ち、意欲的に学びに向かう授業 ◇児童が、自らの経験や既習の知識・技能を活用して対象と関わり、体験、調査、対話活動等を通して課題を解決しようとする。 ◇児童が学習を振り返り、達成感や充実感を感じると共に、学習を次へとつなぐ授業	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力以 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力以 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	自ら学ぶ 主体的・協 働的に学 び続ける 児童の育 成	★	新規	児童が主 体的に学 び他者と 協働して 課題を解 決する授 業づくり	○地域素材を 活用した単 元づくり及 び課題発見・ 解決学習の 実施 ・地域学習単元 構想図作成・ 交流	◆学習に係る児 童の意識調査 肯定的評価： 80%以上 ・解決しようとする 課題について、 「なぜだろう」、 「やってみたい」 と思う ・情報を、比べた り、仲間分けし たり、関係を見付 けたりして、何が 分かるのかを考えて いる ・自分の考えとその 理由を明らかにし て、相手に分かり やすく伝えるよう に発表を工夫して いる。	◆学習に係る児童の意識調査 ・解決しようとする課題について、 「なぜだろう」、「やってみたい」と思う【89%】 ・情報を、比べたり、仲間分けしたり、関係を見付けたりして、何が分かるのかを考えている【83%】 ・自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している【75%】 ○探究的な学習のサイクルを意識した単元構想づくりを行った。そのため児童が「なぜだろう」を思ったことや情報分析を意識した結果だと考える。今後は、単元構想図を基にした探究のサイクルを実際に回していく必要がある。	3	3	・単元構想図をもとに探究のサイクルをまわし、教師がレールを引かない授業をつくる。	◆学習に係る児童の意識調査 ・解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみたい」と思う【90%】 ・情報を、比べたり、仲間分けしたり、関係を見付けたりして、何が分かるのかを考えている【86%】 ・自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している【74%】 ○全学年が単元構想図の作成・実施・見直しを行い、学校全体で探究的な学びづくりをするためのポイントを整理することができた。	3	3	3	・児童の思考や思い、願いに沿った学習課題の設定を行う。 ・総合的な学習の時間の単元構想図の見直しを行い、探究的な学びを継続する。 ・相手意識、目的意識を持った表現活動の場を工夫して設ける。
					○授業Weekに 国語部会、算 数部会の授 業提案、授業 交流実施 (6月、11月)	◆授業観察シート を活用した 評価 肯定的評価： 80%以上	◆授業観察シートを用いた評価【100%】 ○6月の授業ウィークでは、全員が授業を公開し互いの授業を見合うことができたが、型にこだわる授業ではなく、学びの定着と協議の充実を目指す。	3	3	・11月の授業ウィークでは、学びの習得のための手立ての工夫の設定と授業後の交流・協議を充実させる。	◆授業観察シートを活用した評価【100%】 ○教材研究の視点を学んだという、肯定的評価が多かった。授業者にとっては、自己の授業内容を見直し、改善を図るきっかけとなった。	3	4	4	・本時でつけた力を明確にした授業ウィークの実施を継続する。
					○学力補充 ・みのっ子タイムにおける基礎・基本学習 ・家庭学習の習慣(宿題・予習・復習)	◆標準学力調査等の実施 5・12月に実施し結果が向上	◆学力補充のため、みのっ子タイムに加え、週に1回学び直しの時間を設けた。 ○学力補充に係る取組はできている。しかし、目的の明確化と取組の精選を図る必要がある。	3	3	・みのっ子タイムでは漢字と計算などの基礎基本の定着、がんばる教室では複数対応での学び直しを目的とし、家庭学習と共に学びを支える取組を充実させる。	◆標準学力調査の結果(全国平均点との差) 国：4年10.9点、5年5.2点上昇 算：4年12.3点、5年11.9点上昇 学びに向かう意欲がある92.9% ○「みのっ子タイム」、「がんばる教室」での学び直しの時間が効果的であった。児童が自らの考えをアウトプットする授業づくりが必要である。	3	4	4	・児童が自らの考えを説明する等探究の過程を充実させる授業づくりをする。 ・学力補充に加え、家庭学習の内容を充実させる。

3	人間性豊か	★	継続		○児童が企画・運営・改善する行事や委員会活動等の実施	◆児童の意識調査 肯定的評価 80%以上 ・自分とちがう意見について考えるのは楽しい ・友だちや周りの人の考えを大切に、協力しながら課題の解決に取り組んでいる ・自分や周りの人の良さに気付いている	◆児童の意識調査結果 ・自分で考え、活動した【80.5%】 ・友だちや周りの人の考えを大切に、協力しながら課題の解決に取り組んでいる【96.3%】 ・自分や周りの人の良さに気付いている【90.2%】 ○クラブ活動においては、6年生が運営を進めることができたクラブがあったが、委員会活動においては、常時活動に参加できない児童がいた。また、徹底させることができなかった。	3	3	・児童が主体的に活動できるように、委員会の基本の進め方を提示し、児童に会を運営させ、アイデアを出しやすくする。	◆児童の意識調査結果 ・自分で考え活動した【83.8%】 ・友だちや周りの人の考えを大切に、協力しながら課題の解決に取り組んでいる【92.7%】 ・自分や周りの人の良さに気付いている【91.7%】 ○児童に役割を持たせ、それぞれの学年や立場から責任ある行動ができるように取組み、学年を超えて関わりを増やすことにつながった。月目標について全児童が振り返り、それを数値化することで、目標に向かってクラス全体で取り組もうとする児童が増加した。	3	4	4	・児童が主体となる、クラブ・委員会の継続実施。 ・縦割り掃除を継続実施し、定められた目標の数値化を継続実施。
3	人間性豊か 思いを伝え合い、互いを理解し合って、自分も他者も大切にする児童の育成	★	継続	児童が多様な他者と一緒に、認め合う動きによる自己肯定感の向上	○児童がお互いの考えを認め合うクラス会議の実施		○クラス会議においては、実施できたクラスもあったが、目的をもって行うことができたかは定かではなかったため、2学期は各クラスの実施状況や結果を確認していく。	3	3	・親和的な人間関係を構築することをねらいとしたクラス会議を、全クラス第1次～5次まで実施する。	○親和的な人間関係を構築することをねらいとしたクラス会議を全クラスで定期的に実施した。	3	3	3	・親和的な人間関係を構築することをねらいとしたクラス会議の継続実施。
1	たくましい 自らの健康や体力に関心を持ち、よりよい生活を築こうとする児童の育成	★	新規	基本的な生活習慣の運動への意欲の向上	○児童が自分の生活を振り返り、よりよい生活習慣づくりをするチャレンジ週間の実施	◆児童の意識調査 肯定的評価85%以上 ・生活習慣を意識して生活している ◆児童の生活時間調査 ・学習、読書時間 ・スマートフォン・ゲーム時間 ・運動時間	◆生活時間調査結果 ・生活習慣を意識して活動している。【72.2%】 ・1日の学習時間1時間以上の児童【72.3%】 ・平日のメディア使用時間2時間未満【77.0%】 ○メディア時間と学習の相互関係についての説明をし、意識を高めることができた。生活習慣改善のための具体的な方針を示すことができた。 ○チャレンジ週間の実施が2学期からのため、児童や保護者の意識を高めることができなかった。	2	3	・学習時間やメディア使用時間についてクラスで話し合うことを通して、生活習慣を意識させる。・定期的に生活習慣のチャレンジ週間を実施し、改善を図る。・定期的に生活習慣のチャレンジ週間を実施し、改善を図る。	◆生活時間調査結果 ・生活習慣を意識して活動している。【86.7%】 ・1日の学習時間1時間以上の児童【78.3%】 ・平日のメディア使用時間2時間未満【75.8%】 ○メディアコントロール週間を年3回実施し、委員会活動と連携した取組みにより、よりよい生活習慣を意識して生活することができる児童を増やすことができた。 ○チャレンジ週間には、毎日児童から給食時間に放送で呼びかけを行った。保護者へメール配信で啓発したりした。	3	3	3	・「メディアコントロール週間」の実施回数を増やす。

					○児童が運動への関心を高め、自分の目標を目指し取り組む活動の実施 ・運動遊びの紹介 ・体育授業研修実施	◆体力テストの課題となる運動の再テスト ・課題となった運動の結果向上	○暑い日が続き、運動を実施できる日が少なく、体力を向上する取組みを行うことができなかった。	2	2	・体力テストの記録を受けて、体力テスト記録会を実施する。 ・かけあしタイムの実施。 ・委員会と連携し、運動の紹介	◆生活時間調査結果 ・平日の運動時間1時間以上【59.9%】 ○体育の授業で体力向上を狙いとした運動を取り入れた。かけあし記録会に向けて、毎回の自分のタイムを記録し、自分の目標や記録に関心をもって運動に取り組ませた。1日1時間以上運動をする児童が18.6ポイント増加した。	3	3	3	・体力向上研修を行い、授業内の体力向上の取組を継続的に行う。
1	活かされる学校 信頼される学校の推進	新規	保護者・地域と学校の連携を強め、共に育む	○保護者・地域との効果的な連携 ・保護者・地域と共に行う学習活動 ・多様な情報発信	◆保護者・地域の意識調査・肯定的評価85%以上 ・学校の教育活動の様子がよく分かる。 ・子どもたちの取組を応援している。	○児童・保護者・教職員の意識調査結果 ・学校の教育活動の様子がよく分かる。81% ・子どもたちの取組を応援している。93% ・仕事にやりがいを感じている。96% 回答率97%と高いことは成果と考えるが、情報の発信の方法を工夫する必要がある。	2	3	・保護者・地域と共に行う学習活動等について、通信やクラスルーム等、多様な方法で情報発信する。	◆児童・保護者・教職員の意識調査結果 ・学校の教育活動の様子がよく分かる。【85%】 ・子どもたちの取組を応援している。【94%】 OPTAや地域と共に行う活動を実施し、保護者への情報発信に努め、子どもたちの取組を応援している保護者が増えている。	3	4	4	・PTA・地域と連携した教育活動を継続して行うとともに、多様な情報発信に努める。	
1				○タイムマネジメントと学びに向かう時間の確保	◆教職員の勤務時間外在校時間45時間/月以内 ◆教職員の意識調査肯定的評価85%以上 ・仕事にやりがいを感じる	○勤務時間外在校時間 ・45時間/月以内75% 定時退校に努め、効率的・効果的に校務に取り組む必要がある。			・会議精選、業務のルーティーン化等により授業準備等職員の学びに向かう時間を確保する。	◆勤務時間外在校時間 ・45時間/月以内【91%】 ◆教職員の意識調査 ・仕事にやりがいを感じている。【100%】 ○職員の学びに向かう時間を増やすと共に業務のタイムマネジメントにより、勤務時間外在校時間が改善している。				4	4

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。